

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-153	14-152	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Negative affect is associated with alcohol, but not cigarette use in heavy drinking smokers. 大量飲酒喫煙者において、ネガティブ感情は喫煙よりもアルコール摂取に影響する		
執筆者		
Bujarski S, Ray LA.		
掲載誌		
Addictive Behaviors. 2014 Dec;39(12):1723-9. doi: 10.1016/j.addbeh.2014.07.019.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、大量飲酒喫煙者、喫煙、構造方程式モデリング		25117849
要 旨		
目的：		
<p>飲酒と喫煙の両方を行う者は多い。これまでに、不安や抑うつ症状などのネガティブな感情は、飲酒や喫煙と独立して関連することが報告されているが、飲酒と喫煙を同時に行なうこととの関連についての報告は少ない。本研究の目的は、大量飲酒喫煙者におけるネガティブな感情と喫煙およびアルコール摂取との関連について明らかにすることである。</p>		
方法：		
<p>研究の第1段階として、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスで Web と印刷広告を使用して大量飲酒喫煙者の 461 人をサンプリングした。次に、第2段階としてネガティブ感情と大量飲酒および大量喫煙との関係について、統計学的に検討した。統計学的解析には共分散構造分析を用いた。なお、本研究はアルコール依存やニコチン依存の治療研究ではなく、対象者に依存症の治療を行っているものはいなかった。</p>		
結果：		
<p>構造方程式モデリングによるパス解析の結果、ネガティブ感情からアルコール摂取に直接的な影響が認められた。次に、媒介分析を行った結果、アルコールへの渴望が媒介因子であることが明らかとなった。このことから、ネガティブ感情は渴望を高め、ネガティブ感情を軽減するために飲酒を行うことが示唆された。一方、喫煙とネガティブ感情は関連が認められなかった。</p>		
結論：		
<p>大量飲酒喫煙者において、ネガティブ感情は大量飲酒と関連がみられたものの、喫煙との関連はみられなかった。また、大量飲酒喫煙者の不安や抑鬱といったネガティブ感情を治療することで、アルコール摂取量を軽減する可能性が示唆された。</p>		